

網膜剥離患者の退院指導の再検討

—退院パンフレットを改良して—

1 病棟 8 階西、 ○月森恵美 長富貞子 正木晴美 河村利栄

はじめに

網膜剥離は急激な視力低下や視野欠損を来し、場合によっては再剥離を繰り返し失明に至る疾患である。そのため患者は“再び剥離するのでは”という不安を訴えることが多い。剥離の拡大や再剥離の予防を目的に、入院直後より床上安静と臥床時の体位制限、振動を避けるための労責の禁止、歯磨き・髭剃り・洗髪など日常生活が制限される。この制限は退院後も一部続くことがある。したがって、入院中から退院に向けての日常生活指導が重要となる。現在の退院指導パンフレットは、一枚の用紙に次回受診日や点眼指示、日常生活指導が記載されている。医師が次回受診日と点眼指示を記入した後看護師に渡していたため、看護師が行う患者への退院指導が退院直前になることが多く、その日の担当看護師が退院指導を行っていた。私たちは、患者の退院後の日常生活における不安や疑問が少しでも解消されるためには、入院当初より深く関わっている担当看護師が退院指導を行うことが重要と考えた。そこで私たちは退院パンフレットを改良し試行した結果、患者及び病棟看護師より良い評価を得ることが出来たので、その結果をここに報告する。

研究方法

- ①医師の退院時指示と看護師の行う退院指導を別用紙とする。
- ②看護師の行う退院指導項目について医師と共に再検討する。
- ③網膜剥離患者の退院指導は必ず担当看護師が行うこととする。
- ④改良パンフレットを用いた退院指導を1ヶ月間試行後、1-8西看護師17名を対象に改良パンフレットの指導項目内容、早期指導の可否、使い易さ、患者の反応などについて、聞き取り調査法にて有効性を評価する。

研究期間

平成14年4月1日～8月30日

結果・考察

- ① 医師と看護師の指示及び指導用紙を別用紙とした。その結果、担当看護師は退院が決定した時点から退院指導を行うことが可能となった。7月中旬より改良した退院パンフレットを用いて、担当看護師が患者の仕事や家庭での役割なども考慮した上で、網膜剥離の患者とその家族に指導を行うことが出来た。澤田ら¹⁾も、“指導に当たっては個人の生活習慣や価値観をふまえて、日常生活の中で無理なく実施できる様に具体的な指導を行うことが重要である”と述べているように、改良パンフレットを使用して退院指導を行った患者に、後日、再剥離の兆候とその対処の仕方、車の運転、クラブ部活動の再開、ジョギングなどについて質問を受けることがあった。退院指導を早期から行うことにより、患者自身が抱えている不安を担当看護師に尋ねる時間的余裕ができたと考える。

- ② 医師と退院指導項目について再検討した結果、現在の退院指導パンフレットは5年前に作成されており、網膜剥離の治療の進歩と指導内容とが一致しなくなっていた。医師は網膜剥離患者の退院指導において、再剥離の兆候を早期に発見し、早期治療をすることを最も重要としていることが解った。そのため私たちは、再剥離の徴候である飛蚊症・光視症・視野狭窄を指導項目の主な内容とした。また医師は、手術などにより網膜が復位した患者には、必要以上の制限はいらないとの考えを示した。このことから私たちは、退院指導項目の努責や振動などの日常生活の制限項目を削除した。改良パンフレットを使用して退院指導をした患者より“退院後はそれほど強い制限がなくて安心した”また“剥離の兆候が出たらいつでも病棟に電話してもいいのね”などの声が聞かれた。退院パンフレットは退院後も自宅で繰り返し読むことができ、再剥離の徴候を早期に発見できる手助けになると考える。その結果、患者は必要以上の制限が緩和され、再剥離の徴候が出現した時の具体的な対処方法を示されたことにより、退院後の日常生活への不安の軽減につながったと考える。
- ③ 医師の退院時指示と看護師の行う退院指導を別用紙にしたことにより、網膜剥離患者の退院指導は担当看護師が必ず行う事が可能となった。金子ら²⁾も“退院時指導は入院時より始まるといわれている（中略）それも患者のことを一番よく知っている受け持ち看護婦の指導が効果的である”と述べている。当病棟では、入院時オリエンテーションを行った看護師がその患者の担当看護師となっている。入院当初より深く関わっている担当看護師が、その患者の生活背景などを考慮しながら指導を行うことが出来るようになった結果、退院指導が効果的に行えるようになったと考える。
- ④ 改良したパンフレットを用いて、1ヶ月間で11名の退院患者に指導した。当病棟の17名の看護師を対象に、改良パンフレットの有効性について聞き取り調査をした結果、退院パンフレットの指導項目内容については、17名が分かりやすいと回答した。医師の退院時指示と看護師の行う退院指導を別用紙にしたことにより、退院決定時に退院指導が可能になったかどうかについては、17名が実施できるようになったと回答した。退院パンフレットの使い易さについては、17名が分かりやすく説明し易いと回答した。またイラストに色を付けるともっと分かりやすい、日常生活の注意事項の文字も大きくした方がよいという意見もあった。この結果から改良したパンフレットは網膜剥離患者の退院指導に有効であると考えられる。

おわりに

医療はチーム医療と言われている。退院指導においても医師と密接に連携を取りながら行うことの重要性を今回の研究で学んだ。担当看護師が早期より退院指導を行うことで、その患者の個別性をより重視した看護が展開できる事が分かった。また私達は常に新しい情報を患者に提供する必要がある、今後、少なくとも1年に1回医師とともに退院パンフレットの内容について再検討していきたいと考えている。

引用・参考文献

- 1) 澤田恵美子ほか：白内障手術を受けた患者の退院指導の評価. 第26回日本看護学会収

- 録（老人看護），P124～127，1995
- 2) 金子和代ほか：白内障患者の退院指導の検討－退院しおりの評価より－．第16回日本眼科看護研究会研究発表収録，P93～95
 - 3) 高橋政代：失明に至る疾患をケア！．眼科ケア，V o l . 4 N o . 3，P 9～14，メディカ出版，2002
 - 4) 山口しのぶほか：眼科患者，退院後の日常生活の疑問に関する実態調査－網膜剥離，硝子体出血，黄斑円孔の患者に着眼して－．第29回日本看護学会論文集－成人看護I－，P219～221，1998
 - 5) 看護の継続と看護チームの育成．看護管理，V o l . 8 N o . 2，P88～112，医学書院，1998
 - 6) 医療連携は看護から．看護管理，V o l . 11. N o . 9，P658～681，医学書院，2001

アンケート用紙

新しく作成した網膜剥離術後の退院パンフレットについて1－8西スタッフの皆様に質問をさせて頂きますので、ご協力お願い致します。

記入方法は、YES または NO の欄に正の字を書いていってください。その他、理由を書く項目にはその理由を記入してください。8/30（金）16時までをお願いします。

質問1. 退院パンフレットは使い易い（説明しやすい）と思いますか。

YES

NO

質問2. 1でNOと答えた方はその理由を記入をお願いします。

質問3. 指導項目内容は、分かりやすいと思えましたか。

YES

NO

質問4. 3でNOと答えた方はその理由を記入をお願いします。

質問5. 医師の記入項目と別用紙にしましたが、早期より退院指導が出来そうですか。

YES

NO

看護研究グループ 月森・長富・正木

様

山口大学附属病院 眼科病棟 TEL0836-2558

次回受診（ ） 予約時間（ ）

点眼 診察医（ ）

内服

網膜剥離の術後

運動制限があります。以下の様な振動のある動作は避けましょう。

頭を振動させる動作や激しい運動

便秘やくしゃみも刺激になります

その他の日常生活

髪は軽く洗い流すくらいにしましょう

眼をマッサージするなど、眼に圧力を加えると再発する事があります

ので注意して下さい！

以下の様な事が起こったらすぐ受診しましょう

- (1) 急激な視力低下及び視野狭窄
- (2) 重症の飛蚊症
- (3) 眼の激しい痛み
- (4) 眼内に光が入ってこないにも関わらず光を感じる症状

眼科外来 0836-22-2518

改良後のパンフレット

網膜剥離の 患者様へ

山口大学医学部附属病院 眼科病棟

☆転んだりぶつかるなどして
眼に衝撃を与えないように
注意しましょう。



☆顔や髪を洗うときに石鹸が
眼に入ったり、眼にゴミ
などの異物が入った場合、
しっかり洗い流しましょう。
異常を感じるようなら
眼科医に相談しましょう。



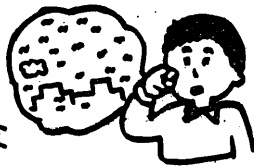
☆糖尿病やアトピー性皮膚炎
などの既往がある人は、
内科や皮膚科の定期受診を
きちんと受けましょう。



網膜剥離の再発時は、以下
のような症状が起こります。

☆飛蚊症

目の前に小さな
虫がたくさん
飛んでいるような
症状

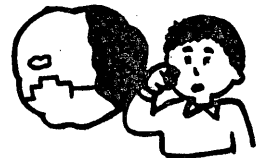


☆光視症

光が当たらない
のにチカチカ
光を感じる症状



☆視野が 狭くなる



上記のような症状や、
眼の痛み・充血・めやにが
出現した場合、すみやかに
外来または病棟まで連絡
して下さい。

外来（平日）

0836-22-2518

病棟（夜間・休日）

0836-22-2558